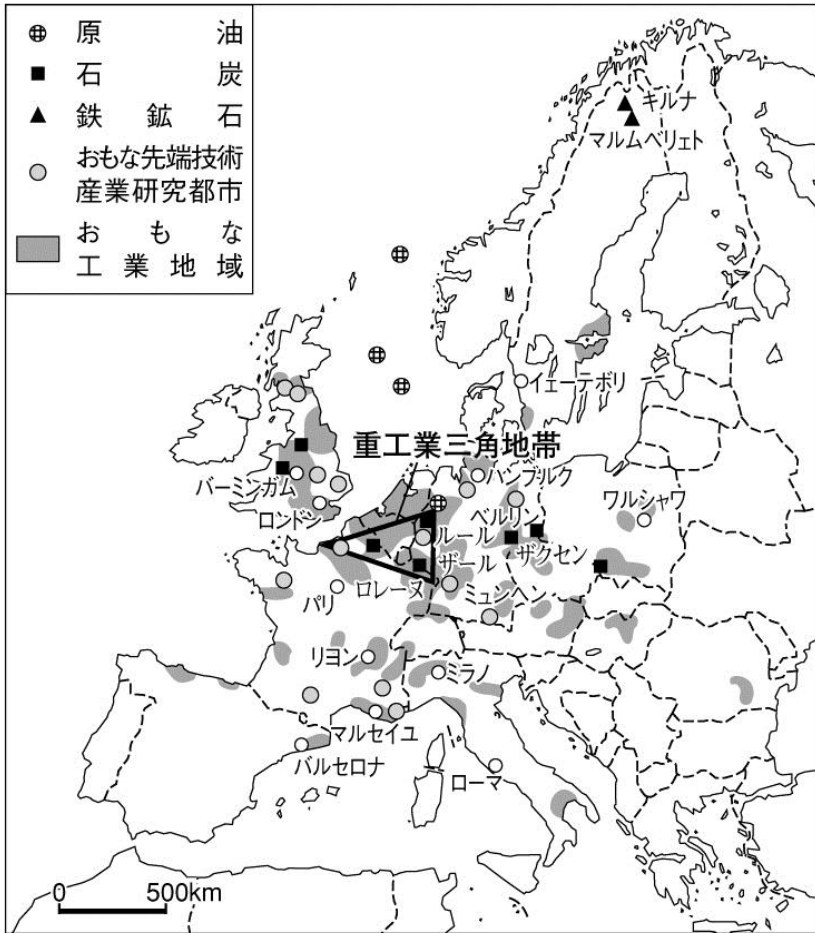


地誌 第23回「ヨーロッパ地誌④～ヨーロッパの工業／ヨーロッパの今後～」

○今回のポイント

EU 諸国の工業と課題(教科書 p.194～)



☆重工業三角地帯☆

18世紀後半英で[①]]

↓

原料産地付近に工業地域が形成

(1)イギリスの[②]](バーミンガム)：石炭と鉄鉱石にめぐまれる。

(2)[③]]：豊富な石炭とライン川の水運を利用して発達

(3)[④]]…鉄鉱石が産出

↓

・[⑤]]…ルール、ロレーヌ、北フランスを結ぶ地域で工業が発達。

※特に、ドイツのルール工業地帯はルール炭田の抱負な石炭と、ライン川の水運を背景に、ヨーロッパ最大の工業地帯になる。

☆エネルギー革命と工業の変化☆

- ・WWⅡ後、資源の海外依存度の高まり
- ・1970年代 [⑥]]

[⑦]]に新たな重化学工業地域が形成

↓

炭田や鉄山等の原料産地付近に発達した旧来の地域は衰退

- 臨海部の工業地域まとめ
- ・イギリス…ミドルズブラやカーディフ
 - ・フランス北部…ダンケルクの鉄鋼業
 - ・フランス南部…マルセイユの石油化学
 - ・オランダのロッテルダムの石油化学

☆新しい工業☆

- (1)[⑧]] ⇒ イギリス南部からライン川流域を経て、北イタリアにいたる地域。
- ・1970年代以降、鉄鋼業・石油化学工業から[⑨]]の機械工業へと転換。
 - ・大都市近郊で機械工業や先端技術産業などが発達。
- (2)[⑩]]：外資系自動車工業の西・バルセロナ／航空機工業の仏・トゥールーズ
- ・スペイン北東部からフランス南部を経て北イタリアにいたる地中海沿岸地域。
- (3)旧東欧地域 (2004年のEU拡大以降)
- ・[⑪]]で生産コストを抑えることができるので、生産拠点が東欧に移転

EU 内部の経済格差

東欧旧社会主義国の EU の加盟により、生産拠点の移動



[12]

(1) ドイツの失業率の増加

○西ドイツでは戦後復興の経済成長の際、[13] と呼ばれる外国人労働者を 1961 年から 1973 年まで公式に受け入れ、多くの移民が流入した。

○生産拠点が東欧に移転していくにつれ、失業率は上昇。失業給付などの[14] が増大。

○ネオナチなどの右派勢力が台頭し、[15] や自民族文化中心主義が高まる。

(2) 「安い労働力」をめぐる競争

○ポルトガルやギリシャは[16] 年に加盟し、「安い労働力」を提供したことで EU 域内から工場が進出してきたが、「産業の高度化」では進展がなかった。

○[17] 年、東欧諸国が EU に加盟すると、東欧の方が「安い労働力」を提供できるので、生産拠点が移転。競争にさらされている。

将来の課題

(1) 経済的な統合(ヒト・モノ・カネ)の自由化から政治的な統合へ

☆各加盟国の[18] を制限し、EU 全体の政治・法律の制度を一元化☆



☆[19] の反発☆

a. [20] …EU 憲法であるマーストリヒト条約(1991)の批准を国民投票で反対多数。高水準の福祉や環境政策を EU 水準に合わせると自国の水準が低下するという懸念。

b. 単一通貨ユーロの導入留保…[21]、デンマーク、スウェーデンなど



☆[22] (1997)☆

首脳会議の決定を全会一致とする規定を見直して、加盟国であっても、国内の反対が強い場合には国内の事情を優先してもよいこととなった。

(2) トルコの問題

・ 1960 年代から加盟申請を続けているが認められていない。

・ いつまでたっても認められないので、トルコは最近イスラーム勢力が台頭しつつある。

・ [23] …北部のトルコ系住民と南部のギリシャ系住民との間で紛争。北部がトルコ支援を受けて 1983 年に[24] として一方的に独立を宣言。南のギリシャ系キプロス共和国は、2004 年に EU に加盟したが領土は分断している。

(3) 現代情勢の問題

・ [25] ユーロ…ドルに対して 30%ほど高い。市場競争力の面で苦境。

・ 米国に対する対応…英国は[26]。独仏は欧州中心。イラク戦争で英と独仏で賛否が分かれる。

・ 多民族共生の問題…仏は[27] (公共での宗教的シンボルの禁止)。蘭や英は多文化主義で寛容。